

## 支 部 だ よ り

### 関西支部総会

#### -回を追うごとに魅力増す-

塩川裕爾 (M昭39)

7回目を迎えた関西支部総会・懇親会は、4月21日、ラマダホテル大阪で開かれ、過去最高の80人が出席、会の隆盛を印象付けた。関西支部の集まりは「講演、演奏などの楽しい企画や大学・同窓会本部来賓による母校の現状紹介など、回を追うごとに魅力を増してきた」(皆勤者の1人S昭36種岡善次郎さん談)。来賓として学長、外語会理事長、大阪外語大咲耶会会長の挨拶があり、総会の後、言語学者・崎山理氏(F昭37)が講演した。続いて2時間にわたり懇親会を行った。

総会は大学歌「天地をひらくあけぼのに・・・」が会場内に流れ開幕、先ず、西尾富巳男支部長(R昭25)が「この会の主役は会員の皆さん。皆で会を盛り上げ、同時に国際教育支援基金などの外大の活動にOBとして真剣に対処して欲しい」と挨拶した。続いて来賓の中村博東京外語会理事長(E昭29)が、外語会の健全財政への努力と大学支援の実績について報告した。また安定した財政黒字を目指す新たな方策を説明、「会報」で6月号から3回にわたって告知し理解を求める、と語った。

続いて、関西支部総会に4回目の参加となった池端雪浦学長が挨拶、学長就任以来6年、法人化と競争的環境の中で、東京外大を日本社会の要請に見合った魅力ある大学にし、世界経済、社会、文化の中で外大を世界に通用するものにするために腐心した過程を振り返った。現在の目立った動きについて「学生が主体的にかかわる活動は高度化している」とし、「日本語で読む中東メディア」プロジェクト、本格的演劇に脱皮しつつある「語劇」について語った。たとえば、ウルドゥー語劇団はインド・パキスタンで「はだしのゲン」公演を果たし、2007年の「日印交流年」のプログラムにも乗った。また、「国

際教育支援基金」について「現在海外から約六百人の留学生を受け入れており、日本からは三百数十人が留学している。そのうち奨学金をもらっているのは、それぞれ5%にも満たない。それ以外は私費による留学である。地球社会との協働、世界の知性を引き付けるためにも基金への募金にご協力いただきたい」と述べた。

そのあと来賓の池田修大阪外語大咲耶会会長が挨拶、「大阪外大は2007年10月から大阪大学と統合、その外国語学部となるが、咲耶会は同学部の同窓会として存続する。東京外大とは従来通り親しくお付き合いしたい」と語った。

今年の特別講演は、国立民族学博物館・総合研究大学院大学・滋賀県立大学各名誉教授、崎山理氏の「滅びゆく世界の小言語」。話者の少ない言語は大言語に乗り換えられてゆく。歴史的にも天災、征服、飢餓などによって消滅した。数千言語のうち50%がすでに消滅、今後も地球温暖化による飢餓状態などが原因で21世紀末までに残りの45%が消え、300-600言語が残るのみとなる、とされる。環境・文化と密接にかかわる言語の消滅は、自然の教科書を失うことに等しい。小言語の殆どは文字を持たず、記録もない。現地に行ってみなければ分からない。言語は変化する。「もっと研究者が生まれないといけない。財政面の支援も必要だ。消えつつある言語の話者は、その保存の必要性を感じていない。ぜひ、将来の研究者が出て欲しい」と力説された。

総会後の懇親会では、石原外語会支部委員長



ほかの来賓をはじめ初参加の11人、7回皆勤の3人が紹介された。出席者の中には40年ぶりに出会う人々もいて、懐旧談に時を忘れた。「キンキラ節」が今回も熱唱された。ところが、最近の卒業生はほとんど聞いたことも、歌ったこともないという。この歌も消滅の瀬戸際にあるのだろうか。

関西支部では、年に1度の集まりに、全ての同窓の方々への参加を歓迎している。今年も東京、中部の人や海外から一時帰国の人々が参加した。来年5月25日(日)にラマダホテル大阪で開く「関西支部総会・懇親会」には、地球上どこにお住まいの方でも、どうぞご参加ください。

## ロンドン支部 2007 年新年会

焼石(池田)千晶 (I平1)

暖冬のロンドンで1月19日、恒例の新年会が開かれました。場所は繁華街・ソーホーの日本食レストラン。欧州各地で吹き荒れた前日の強風のため交通機関が大幅に乱れ、数人が急きょ来られない事態に。それでもケンブリッジなど遠方も含めて学生や日英の企業で働く人など15人が集まりました。



鶏の唐揚げやたこ焼きなどを夢中で頬張り、ほろ酔い気分になったところで自己紹介。それぞれの近況を交えながらのスピーチは長い人で約30分にわたり、さすが個性的な人が多い外語出身ならではの、と実感しました。筆者は初参加組でしたが皆さんのこちらでの暮らしぶりやお人柄にたちまち触れることができました。

その後は、若いメンバーの方から新キャンパスの様子を聞いたり、西ヶ原組はキャンパス周辺のよく行った喫茶店や食堂の話で盛り上がりたり。役員改選も行われ、向こう1年以上英国に在住予定の方を中心に新役員が選ばれまし

た。今後さらに活動を活発化させ、他大学のロンドン支部とも交流を深める予定です。

新年会出席者：原田豊 (S昭40) 柴崎克美 (In昭46) 荻野倬也 (F昭46) 広瀬尚文 (R昭51) 吉永真理 (C昭58) 石野斗茂子 (E昭63) 焼石千晶 井上愛子 (C平4) 伊藤(加藤)美千代 (M平6) 山崎美恵 (I平11) 河内純 (E平14) 平位匡 (D平14) 酒井香央里 (Po平14) 横田芙由美 (Cz平16) 澤田真弓 (E平17)

## カイロ外語会 活動報告

谷生俊治 (D平10, GL平12)

5月8日、日本人が多く住むカイロ市内のザマーレクにあるマリオットホテル内のレストラン、Omar Caféにて不定期に開催しているカイロ外語会の会合を開きました。参加したのは大岡誠一会長 (S昭50)、金沢浩明さん (E昭61)、若林美佳さん (A昭60)、庄司いずみさん (A平11)、金子真哉さん (U昭43)、若林利昭さん (Pr平12)、それに現役外語生で留学中の徳阪麗子さんと清水雄さんと私の計9人でした。タイ人スタッフが作るタイ料理のビュッフェに舌鼓を打ちながらビールで乾杯し、西ヶ原の思い出話に花を咲かせました。現役の2人には意味不明な会話だったでしょうが、「西ヶ原世代」が多数派のカイロ外語会では、どうしてもこの話題で盛り上がりすぎてしまいます。



幹事の私の不精で久しくご報告が遅れていましたが、現在のカイロ支部の現状を簡単にご紹介しておきます。2007年5月現在、確認されている会員は18名。会長は日本航空の支店長大岡誠一さん、幹事役を私とJICAの庄司いずみさんが務めています。これからカイロに赴任・留学などで滞在される方、是非ご一報くだされば

と思います。一年に2回から3回、会報が届くのを目安に集まり、カイロ生活の不満(?! )や外語大の思い出などを楽しく語り合っています。

## 外語会アモイ支部結成！！

秋保 哲 (C昭56)

去る4月3日に、中国福建省アモイ市で外語会が結成されました。その経緯を皆さんにご紹介したいと思います。

中国福建省アモイ市は台湾の向かい側に位置しており、台湾人が多い街です。中国が改革開放に舵を切ってから間も無くの1980年前後に、中華圏への対外経済工作を目的に4つの経済特区が作られました。その中で台湾に対する経済窓口となったのがアモイ市です。そんな歴史もあり、現在は約5万人の台湾人が居住していると言われています。一方で日本人の長期滞在者は3百人程度しかおらず、やや寂しい状況です。また、その内訳も、外語の卒業生が多いといわれる銀行や商社の駐在員はゼロで、メーカーや物流企業の方々中心の構成であり、外語会の立ち上げは端から諦めておりました。

そのような中、国家重点大学であるアモイ大学に一昨年開設された日本研究所の初めてのシンポジウム(昨年12月)に勤務先の会社として協賛することになり、その打合せで私の事務所にいらしたのが、今回外語会アモイ支部の幹事をお願いすることになった、現アモイ大学嘉庚学院・日本語講師の三浦久仁子さん(C平15、GA平18)です。その時は外語の卒業生だということは全く知りませんでした。無事シンポジウムも終了して年も明けて暫くしたある日、三浦さんからeメールが届きました。何と彼女は私の大学時代の恩師であった金丸邦三先生(外語から大東文化に移られ、現在は完全にご退職されている)の研究会に参加していたのです。そんなことから更にeメールで情報交換するうちに、アモイ大学に外語関係者が数名いることがわかりました。その背景に外語とアモイ大学との間に交流協定が結ばれていることも知り、またびっくりでした。早速ふたりで外語会アモイ支部の設立について話し合い、日程を調整して

初会合に漕ぎ着けました。このように外語会アモイ支部は偶然の出会いから設立に至りました。

4月3日、アモイ市内にある老舗ホテルのクラウンプラザ・ホリデーインにある中国料理「龍苑」に設立メンバー6名が集まりました。アモイ大学外文学院日本語文学系・副教授の黄少光さん(03年院AC博士課程修了)、同日本人講師の友常勉さん(04年院AC博士課程中退)、前述の三浦久仁子さん、同大学南洋研究所に留学中の中野顕暢さん(C科学部4年)、同大学人文学院哲学系に留学中の笠見弥生さん(C科学部4年)、そして私という面々で、企業人は何と私だけというユニークな外語会支部です。当日は、各人の状況、当代中国人大学生の就職観、学問のあり方等の話題で議論が白熱し、金丸先生から頂いた外語会アモイ支部設立への応援メッセージも披露され、中盤からビールや紹興酒がどんどん空いていきました。最後に、役員体制(会長・秋保、幹事・三浦さん)、定例会の頻度(3ヵ月に1回が目標)、定例会の進め方(事前にテーマを決めて当日議論)が合意され、第1回会合は盛況のうちにお開きとなりました。小粒な支部ですが、大学関係者が多いという特徴を生かし、ユニークな運営で今後第2回、第3回と大いに盛り上げて行きたいと思っています。

(追記)

去る6月27日に第2回目の外語会が開催されました。第1回目と同じメンバーがアモイ大



前列左から黄少光、秋保哲、友常勉、後列左から中野顕暢、笠見弥生、三浦久仁子

学構内のレストランに集まり、決めてあった話題や近況について語り合い、大いに盛り上がりました。そこで、友常さんが8月に大連の海事大学へと異動されることが内々に披露されました。また、交代の方が外語から赴任されるとのことでした。そして中野さん、笠見さんも夏休

み明けから外語に復帰するのですが、何とその交代でアモイ大学に留学する学生の方々がいないという事実を知りました。(アモイ支部のメンバーが2名減!)アモイは「普通話」(中国語の標準語)に加え、「閩南語」(福建省南方の言葉で「台湾語」とほぼ同じ)を学べる貴重な場所であり、来年は台湾との本格的なチャーター便運航も期待されており、台湾とのつながりを考えると、とても興味深い場所です。アモイ大学との貴重な交流協定を活かす為にも、是非学部の学生の皆様の留学を切にお待ち申し上げます!(全日空勤務)

### 清水武夫シカゴ支部長 (E昭40) を偲ぶ

土屋 隆 (E昭50)

独立記念日の休暇明けの7月5日昼過ぎ、オフィスに清水さんのお姉様から電話がありました。お姉様とは面識がないので、清水さんのガンが3月に再発したことを知っていた小生は、悪い予感がしました。やはり、悲しい知らせでした。3日に亡くなられたと。

清水さんは、小生がシカゴの日本語コミュニティ誌で外語会設立を呼びかけたのをご覧になり、2005年の秋にコンタクトしてこられました。そして、06年1月の新年会で初めてお会いしました。清水さんは、「こちらに嫁いだ姉を20代の後半に訪ねて来てから、居着いてしまい、もう40年にもなってしまった」、「この間三菱商事の支店に勤務し、数年前に引退した」、「外語の人は、同級生の高橋作太郎さんがノースウエスタン大に留学していた時以来会っていなかった」、と思い出を語られ、「外語の人が集うのは珍しく、うれしい」、「転勤族と違ってシカゴにこれからも永くいるし、外語に恩返しができるので」と喜んで支部長役を引き受けて下さいました。清水さんはその時、ガンのため胃を全摘出してしまったが、少量、かつ、ゆっくりであれば何でも食べられるとおっしゃっていました。その後、06年8月の外語会には、再発したガン治療の為に欠席されましたが、07年1月の新年会には元気なお姿で参加され、完治したのでと出席者各自に快気祝いを配られました。その後、電話で何度か連絡し、夏の会合の話もしていま

したので、これがお目にかかる最後になるとは夢にも思いませんでした。

清水さんには、今年6月の会報に寄稿していただき、母校や同窓生とのつながりができた矢先でしたので、ご逝去は大変残念です。ただ、ご自身は、外大生らしく海外に雄飛し、思い存分過ごした人生に満足だったのではないかと思います。享年69歳。シカゴのモンテローズ墓地に永眠。ああ合掌。



今年1月新年会にて。前列右から2人目が清水さん

### ニューヨーク支部長就任のご挨拶 長谷川潔 (I昭46)

永年、NY支部長を務めてこられた望月恒照さん(Po昭26)が7月にロサンゼルスに転居されることになり、新たに支部長を引き受けました。私は06年6月にNYに着任したのですが、残る任期はそう長くないと予想しています。お引き受けしてもすぐに他の方へお願いする可能性があります。ただ大先輩の望月さんの事情が事情ですので、次の方につなぐ役割を誰かが務めなければと思直しました。

卒業して以来、卒論ゼミの師だった伊東光晴先生を囲む会に年1回出席するぐらいで、外語を訪れる事もなく36年余りが過ぎました。バンコク特派員やシンガポール現法勤務の経歴が物語るように、本来、アジア畑ですのでNYに赴任するとは思ってもみませんでした。想定外の地で卒業後ほとんど縁がなかった外語にほんの少し恩返しができる機会なのかも知れません。

NY大都市圏に住む邦人はざっと5万人。企業駐在員だけでも3万人近くいるとされます。東

京外語の卒業生はけっこう多いと思われていますが、手元の名簿には24人の連絡先があるだけです。マンモス大学はけっこう同窓意識が高く会合も頻繁に開いているようですが、不思議なことに、小世帯の外語卒業生は私自身を含めども‘同窓会志向’が乏しい傾向がありそうです。

今回の支部長交代を機会に今年初めての懇親会を開こうと、無料紙2紙に案内の掲載を頼む一方、メールや電話でも連絡を取りました。連絡が取れたのは10人ほどでした。帰国あるいは転勤された方も多いようです。

しかし、集まってみると、ボートを漕いだ体験や先生の話など世代を超えた共通の話題に事欠かず、楽しい会合になりました。特に印象的だったのは若い女性たちがたくましくこの地で働き、暮らしていることでした。少人数でも気楽に集まり、彼ら彼女らを励ましていければと思います。それがNY支部の灯を燈し続ける事にもなると考えています。(日経アメリカ社長)

## デュッセルドルフ外語会第64回会合報告

芹澤美妃 (D平11)

デュッセルドルフ外語会には現在約20名の会員がおり、年に数回の懇親会を開いています。昨年7月の会合を最後に活動が滞っておりましたが、5月25日に東京外語会第12回海外親善ツアーの皆様をお迎えして、日本人街からほど近いアルトビールの老舗「Schumacher」での交歓会を行いました。

心配されたお天気もなんとかもち、ライン川下りやケルンの大聖堂観光を終えて到着した皆様をお迎えしたのは、現地会員など11名。普段の参加人数が平均6、7名なので心配していましたが、遠くはニュルンベルクから参加の会員もいて、ここ数年の参加者数の最高記録となりました。

日本からの皆様にご賞味いたこう、と用意したビュッフェはサラダやソーセージの盛り合わせに始まり、この季節ならではの白アスパラガス、メインにSchweinehaxe(豚のすね肉のロースト)等、ドイツ色の強いもの。特に、日本

では見かけないほどの大きな塊でどんと出て来るお肉料理は好評で、皆さん写真を撮ったり「ドイツ人はあの量を一人で食べるんですよ。」という私の言葉にびっくりしたり。

ビュッフェが開かれてしばらくの後、鈴木元学長のお話を伺い、歓談タイムに移りました。8日間でフランクフルト、ベルリン、ドレスデン等を駆け抜ける忙しいスケジュールの中、デュッセルドルフの現地会員との交流を、ということでお話をいただいたわりには、現地会員の参加人数が少なかったのは残念ですが、ビール片手の歓談を楽しんでいただけたことを祈っています。

後半に入り、あらかじめ送っていただいた「Songs for TUFS」のCDが流れる中、記念品交換となりました。こちら現地会員からは、デュッセルドルフのモチーフを彫刻した錫の飾り皿。ドイツでは伝統のある錫細工で色付きの壁掛けなどもお土産には人気であること、また外語会事務局に飾っていただける、と言うことで選んだ品です。日本の皆様からはネクタイを始めとするロゴ入り外語会グッズの他に、最中までいただきました。年に一度だけ里帰りする私にはとても貴重な故郷の味で、大変美味しくいただきました。お心遣いに今一度感謝申し上げます。翌朝のご出発が早いこと、そして何よりビールの樽が空になったことで、そろそろお開きということになりました。

その前にやるべきことがもうひとつ。もちろん、全員揃っての記念撮影です。テラス席に出て用意するうちに驚いたことがもうひとつありました。記念撮影用に、日付と地名の入った垂れ幕を持っていらしていたのです。ご出発前のお忙しい時期に、そこまでご考慮いただいたのか、と驚くと共に嬉しく思いました。フレンドリーなウェイターを呼び、全員で「どのカメラ?」「今撮ったの?」などの会話を交わしながらの記念写真となりました。

皆さん前日のドイツ入りにもかかわらず旅の疲れを見せることもなく、そのお元気な様子は大変印象深かったです。後に無事にご帰国、とのお知らせをいただきましたが、デュッセルドルフでの数時間の交流もアルトビールやドイツ

料理と共に、今回のご旅行のいい思い出になっていることを祈っております。



現地会員参加者(敬称略) 森正孝会長(Po昭54) 伝田敦夫副会長(D昭35) 三丁目俊三常任幹事夫妻(D昭37) 福田幸夫(D昭35) 強口照雄(S昭50) 山田順一(D昭61) 野口香織(P1平9) 福井成美(D平11) 宮原きりは(D平11) 芹澤

## 北京・天津外語会の近況について (2007年7月15日)

佐藤文隆(C平4)

北京・天津の外語会は、会長に伊藤正・産経新聞中国総局長(C昭40)、副会長に山崎邦生・全日本空輸中国総代表(前日本人会会長、F昭46)を戴き、マスコミ、商社、メーカーの現地トップがざらりと名を連ねています。暑気払いや忘年会など、年に2、3回のペースで、懇親の飲み会を催しています。



去年夏の留学生合同懇親会

去年の夏には、伊藤会長の「若者にも声をかけて」という提案を受けて、北京に留学中の外語大生6名も参加した老若男女が集う30人の大宴会となりました。私が幹事を住友商事の小島

弘敬氏(C昭54)から引き継いだおとしと比べると、メンバーも増えて50人を超え、(特に20代、30代の若い層)宴会の顔ぶれも変わってきています。

また、去年は、大阪外語、神戸市外語の3外語による合同懇親会も開き、外語のネットワークが広がっています。3外語という枠組みでは、ゴルフコンペも開かれており、外語のつながりは多岐にわたっています。

北京は、いま世界で最も変化の早い都市と言っていていいでしょう。来年8月8日に開幕する北京オリンピックを目指して、地下鉄、道路などのインフラ整備、ホテル、マンション建設が急ピッチで進み、五輪を迎えるにふさわしい都市に変貌を遂げようとしています。200万人とも言われる地方からの労働者があふれる建設現場では夜を日に継いだ工事で、半年も見ないうちに、近代的なビルが出現しています。街には、カウントダウンの電光掲示板も設置され、日々、五輪の到来を意識させられます。緑の五輪を意識した街路樹や公園の整備も進んでいます。

しかし、課題も山積しています。悩みの種は、安全な生活環境をいかに作るかでしょう。交通渋滞、食品・水の安全性、大気汚染、そして市民のマナー。発展が早い分、市民の意識が追いついていないという印象は否めません。交通渋滞は、交通量の急増だけでなく、譲り合わず、交差点に突っ込んでいく中国の習性も原因の一つに挙げられます。日本でも報道合戦になっている中国の食品安全への疑問は、消費者を軽視してきた食品業界の歴史を反映しています。そして、イギリスのマラソン選手をして、本番直前まで北京入りしないと叫びしめた大気汚染は、経済成長優先のつけとっていいでしょう。

北京市も、ノーマイカーデーの設定(9月から)、食品業界の再編、そして主要な工場の強制移転など、対策に躍起になっています。やるときは一気にやる社会主義の国だけに、今後の取り組みにも期待したいと思います。

北京の街角では、五輪まであと1年となり、外国人、特に欧米からの観光客の姿が目立つようになりました。中国が世界から注目され、大国になりつつある証左でしょう。先日、五輪期

間中のホテル料金が発表されました。星級ホテルはなんと今の10倍！五輪では宿舎の急騰は常ながら、日系の4つ星ホテルは、1泊12〜3万円になります。

いろいろな意味で、驚かせてくれる中国ですが、日本にとっては、経済的なつながりが深まりこそすれ、減ることはないだけに、外語OBの方々の活躍の場もどんどん広がっていくように思います。

(外語北京・天津会幹事、NHK中国総局記者)

## ベルリンの「ヘビ」の中での懇親会

永井潤子 (D昭33)

今回の外語会ドイツ旅行は驚くほどタイトなスケジュールで、短い期間に西から東へ、北から南へ、ドイツのあれもこれも見たいという、ものすごく欲張った旅行でした。このスケジュール自体に外語出身者の知的好奇心が反映されていたように思いますが、最長老の鈴木幸壽先生をはじめ、年配者が多かったメンバーの方々がこの殺人的？スケジュールを無事にこなされ、しかもおおいに楽しんで帰国されたことにまず、敬意を表したいと思います。皆様が今回ドイツで体験されたことは、長期滞在型の旅行を好むドイツ人なら、少なくとも3回分の見聞に値する筈です。特にご一行の皆様と外語会ベルリン支部との懇親会が開かれた6月26日は、早朝デュッセルドルフを出発、ベルリン観光ばかりでなくポツダム観光の一部まですませた強行軍の後の夕方、しかも時差もまだとれていない時でした。ドイツ語の2年先輩の石原氏から「ドイツについて話をするよう」“命令”された私は、お疲れの皆様にもメルケル首相のプロフィールの他「ドイツが戦後どのように負の過去と向き合ってきたか」といった深刻なテーマの話もしたのでした。ドイツの過去への取り組みを知らないと、国際社会の中で大きな信頼を得ている今のドイツを理解できないと思ったからです。しかし、私個人としては、そんな話より旅行参加者の皆さん一人一人ともっと親しくなりたかったというのが正直な感想です。

さて、ベルリンでの懇親会はCabinettという

ビストロ・カフェで開かれました。私がこの場所を選んだのは、皆様に普通の観光旅行コースではない場所を知っていただきたいという考えからでした。

Cabinettは大統領府のあるベルビュー城や首相官邸に近い上、ベルリン子が「ヘビ」というあだ名で呼ぶ集合住宅の北側の端にあります。南側はベルリン市内を流れるシュプレー川に面しており、川に沿ってくねくねと建てられているため、ベルリン子によって「ヘビ」と命名されたのでした。(写真参照)この集合住宅はベルリンへの首都機能移転にもなってボンからベルリンへ引っ越してこなければならなかった政治家や政府機関で働く公務員のために建てられたため、正式の？あだ名は「連邦ヘビ」とか「政府のヘビ」とかいうようです。実は私もこの「ヘビ」の住人で、引っ越してきた当初はキンケル元外相が近くの最上階に住んでいましたし、最近若い恋人との間に子供が生まれ、スキャンダルになったバイエルン州出身の現職の閣僚のパートもこの中にあります。



外語会ベルリン支部はビジネスマンが一人もいないミニ支部で、現在のメンバー7人は全員女性、Cabinettでの懇親会に出席したのは、植原=ツェルナー・久美子さん(D昭61、日本語教師、翻訳業、3人の母)、金子沙織さん(D平13、ベルリン自由大学学生)、野口優子さん(D平14、ベルリン経済専門大学で目下MBA取得中)と私の4人。パリやプラハの支部と合同の外語会を開くのが私たちの夢です。

(ベルリン支部幹事)